



地域に依存しない 新時代型防災コミュニティの構築



岡山県倉敷市女性防火クラブ事務局
倉敷市消防局消防士長 嶋田 大志

1 はじめに

倉敷市では、昭和52年頃から管内各地域の婦人会を母体とした組織が家庭防火を推進する目的で「婦人（女性）防火クラブ」を結成し、各家庭や地域において防火思想の普及啓発に取り組んできました。これまで各地域での活動や消防局主催イベントへの参加等の活動を続けてきましたが、クラブ員の高齢化・主導者の不在・地域付き合いの希薄化などの影響から活力を失っていました。また、クラブ員はクラブが存在する地域の住民に限定されており、クラブが存在しない地域の住民は加入することができないことなど組織構造上の問題も抱えていました。

2 取組の内容

こうした状況を踏まえ、問題を解決するため組織改革に取り組みました。

これらの問題は、コミュニティの範囲を地域に限定していることが大きな要因になっていると考えました。コミュニティの範囲を地域に限定せず、管内全体に広げ、複数あったコミュニティを一つにして居住する女性は誰でも入ることができる組織へ改革しました。同時に市広報誌等を活用し、管内に居住する女性なら誰もが加入することができる組織になったことをアピールしました。主導者不在の影響から活力を失っている問題については、事務局が主導

で活動していく方向に転換することで解決を図りました。これまでの組織の体制では、各地域の活動は各クラブの裁量に委ねていましたが、クラブが活力を失っている現状を改善するためには事務局が介入していく必要があったのです。具体的には、定期的に事務局主催で防火・防災に関する研修会を開催することにしました。地域という概念を無くして、「個人が防火・防災に関する知識や技術を学ぶことができる」場の提供を目指しました。

3 取組の成果

事務局が主催した研修会では防災講話や防災センターを活用した地震体験、避難所運営ゲームの体験を行いました。防災講話では話し手の一方的なコミュニケーションではなく、双方が発言するディスカッション形式で行い、盛り上がりを見せました。さらに、この研修会を経て、クラブ員が地域で主導者となり、防災訓練を企画する動きも出ています。活力を失っていた活動が少しずつ活発化してきました。

組織構造の改革については、新体制で動き出した令和4年4月以降、着実に変化をみせています。ひとつは、クラブが存在していなかった地域から30名程の加入申込みがあったことです。もうひとつは、「これまで脱退したい気持ちはあったが、狭い地域のコミュニティから抜けるに抜けられなかった。肩の荷が下りたよ。」と高齢の既



研修会の様子① 避難所運営ゲームを体験



研修会の様子② ディスカッション形式で学ぶ



見守る女性防火クラブ員の方々



女性防火クラブ員が企画した防災訓練

存会員の方から感謝の言葉を頂きました。

現在は、以前と比べて組織の規模は縮小したものの、これから家庭や地域で防災の担い手として活躍したい強い志を持つ人材が集まってきています。事務局が主導する研修会をきっかけに活動が活性化し、組織構造も地域単位から個人単位へシフトしたことで以前より柔軟性のある組織に変化しました。今後さらに、研修会の内容を充実させて、魅力のある組織にすることで多くの人を呼び込んでいきたいと思えます。

4 おわりに

近年、自主防災組織や女性消防団など、地域を母体とするコミュニティの活動が盛んに行われています。こうした状況の中、

その他のコミュニティと女性防火クラブの地域防災における役割の「すみわけ」が曖昧になっていることを感じています。「個人が防火・防災に関する知識や技術を学ぶことができるコミュニティ」の構築は、現在の地域防災におけるコミュニティの在り方に新たな風を吹き込むことを期待しています。地域を限定せずに、防火・防災に関心のある個人が集まり、そこで知識や技術を得て、それぞれの家庭や地域コミュニティに戻って、それらを広めていく。管内に複数の防災コミュニティを形成するのではなく、管内全体で共通の興味を持つ個人が集まる「防災サロン」のような役割を担っていきたいと考えています。